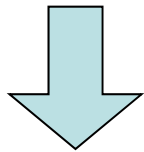


1. 遠野市の立地環境

- ・内陸諸都市と沿岸市町村を結ぶ道路網の結節点。
- ・内陸と沿岸の市町村が半径50km圏内。
(防災ヘリで約15分、車でも約1時間)
- ・地質が花崗岩で安定しており、災害に強い地域。



「宮城県沖地震」に備え、津波が来ない内陸だからこそその役割として、沿岸自治体を後方支援する体制整備が必要。

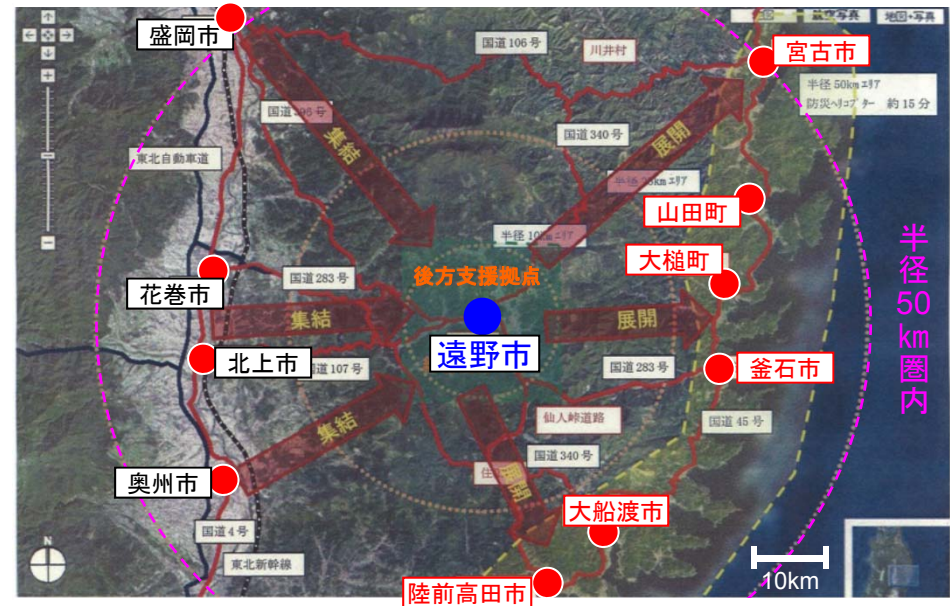


図1 遠野市の立地環境

(地震・津波災害における後方支援拠点施設整備構想(H19、遠野市)より抜粋・加筆)

2. 後方支援のための体制整備

- ・「地震・津波災害における後方支援拠点施設整備構想(H19)」
 - 運動公園を中心とした拠点整備を構想。
 - 構想に基づく拠点施設の整備促進を図るため、沿岸の9市町村による推進協議会を設置し、連携体制を構築。
 - 構想に基づく大規模防災訓練の実施。

①「岩手県総合防災訓練(H19.9)」

- ・沿岸市町村、自衛隊など87機関、8,749人が参加。

②「平成20年度東北方面震災対処訓練(H20.10)」

- ・岩手・宮城県の25市町村、参加人数18,000人、車両2,300台、航空機43機などが参加。



図2 遠野運動公園での訓練状況(自衛隊の野営訓練)
(遠野市沿岸被災地後方支援 50日の記録(H23、遠野市)より抜粋)

※東日本大震災では、遠野市は、訓練に基づき、震災15分後に遠野運動公園の開門を指示し、支援部隊の受け入れ準備を開始。17:40には岩手県警が集結。

遠野市防災拠点の後方支援活動

3. 東日本大震災での主な活動

① 広域支援部隊の一次集結・ベースキャンプ

→「遠野運動公園(29ha)」を中心に、サッカー場、高校、地区センターなどの公的施設や民宿、リゾート施設などの民間施設など、市内各地の施設でも受け入れ（観光地のため民宿等が多くあったことも幸いした）。

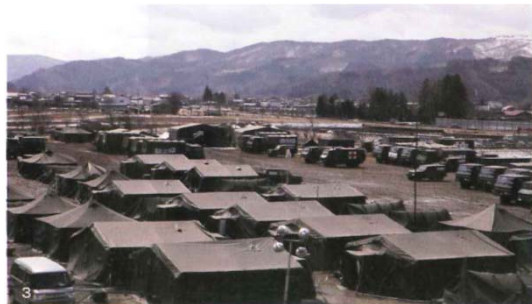


図 遠野運動公園のベースキャンプ
(遠野市沿岸被災地後方支援 50日の記録(H23、遠野市)より抜粋)

② 支援物資の集積・分配

→全国からの支援物資を「稲荷下屋内運動場(0.12ha)」に集積。
→仕分け作業は、市職員のみならず、市役所OBや静岡県職員、ボランティア団体等の協力を得て実施(6月末時点の作業従事者述べ3,764人)。



図5 稲荷下屋内運動場に集められた支援物資
(遠野市沿岸被災地後方支援 50日の記録(H23、遠野市)より抜粋)

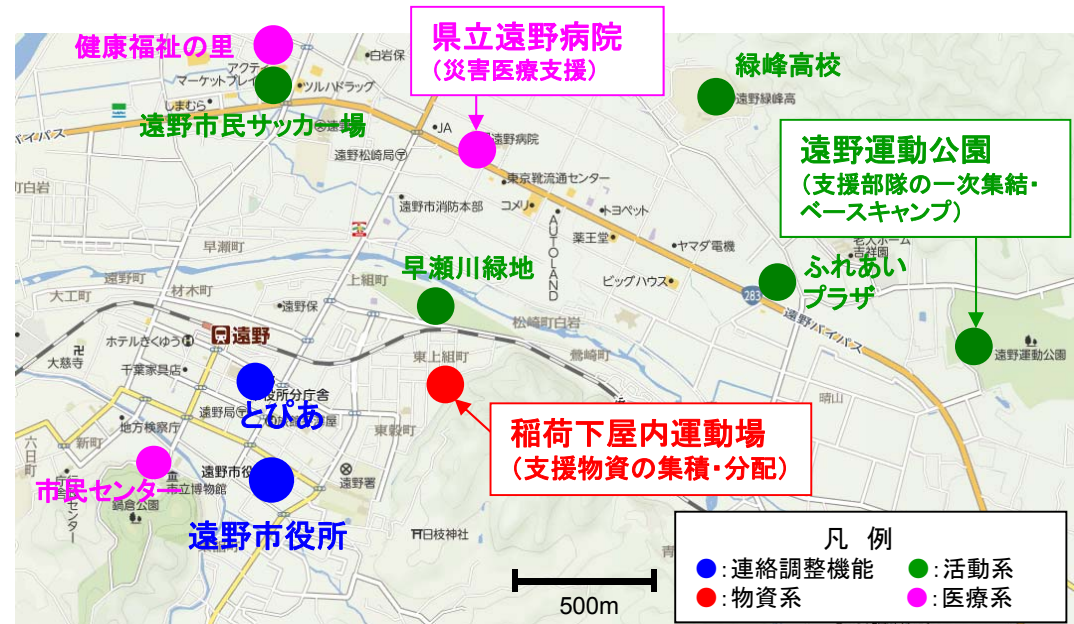


図4 主な活動拠点(遠野運動公園、稲荷下屋内運動場など及び周辺施設)の配置
(出典:「遠野市沿岸被災地後方支援50日の記録、H23、遠野市、p.14」を参考に作成)

③ 災害医療支援

→DMATや全国の医療関係団体を受け入れ。
→県立遠野病院等による患者受け入れ、被災地への医師・看護婦の派遣等の活動を後方支援。

④ 災害時ボランティア活動支援

→住民と市社会福祉協議会の協力の元、ボランティアへの宿泊場所の提供、活動内容の決定、現地への輸送を実施。
→活動内容は、物資の仕分け・搬送、炊き出し、瓦礫整理、避難所支援、入浴支援など様々。

遠野市防災拠点の後方支援活動

東日本大震災での遠野市の後方支援拠点としての主な機能状況のまとめ

主な評価項目		遠野市での集結した部隊や物資量の実績等	摘 要 (メリット等)
立地条件等	広域防災拠点の立地条件	地質は花崗岩であり安定。津波浸水も生じない。	・ 遠野市内は、人的被害が少なく、人・モノ・情報の集積拠点として機能
	広域防災拠点のカバー範囲	釜石、大船渡など沿岸市町に1時間で移動可能（ヘリでは約15分）	・ 内陸部の盛岡市、花巻市、北上市からも1時間半程度で移動可能であり、これら自治体からの支援の中継地としても機能
集結した部隊	自衛隊	1,800人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訓練に基づき、震災15分後に遠野運動公園の開門指示。17:40には岩手県警が集結 ・ 自衛隊は、遠野運動公園を拠点に活動 ・ 警察や、インフラ事業者は遠野運動公園に集結後、沿岸部に展開
	警察	984人	
	消防	350人	
物資	飲料水	21.2万ℓ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 救援物資は、被災地ニーズを把握しながら計画的に搬送 ・ 当初は市職員自ら運転し、3月23日からは県トラック協会等の協力も得て搬送 ・ 遠野市は、大阪府や武蔵野市、三鷹市などに物資を要請（後方支援の後方支援） ・ 遠野市が後方支援拠点であることが広まり、遠隔自治体からの支援活動も拡大
	おにぎり	14万個	
	米	38,000kg	
主な拠点の面積		遠野運動公園 29 ha 稲荷下屋内運動場 0.12ha	・ 左記が活動、物資の主な拠点であるが、他の市内施設も活動拠点として活用

参考資料：H19、H20に実施された防災訓練の概要

①岩手県総合防災訓練(平成19年)

- ・実施日時：平成19年9月2日
- ・主催：岩手県・遠野市
- ・訓練参加機関：全87機関
- ・参加予定人員：8,749人
- ・主な訓練内容



図1 遠野運動公園に設置した指揮本部



図2 自衛隊機に乗り込む医師団

- a) 中継救援基地設置運営訓練、派遣訓練、救援物資仕分け・搬送訓練
- b) 対策本部機能及び県・市・関係機関の情報連携を確認するためのロールプレイング方式による図上訓練
- c) 住民参加による、要援護者の安否確認訓練、初期消火訓練、市民負傷者救出訓練、障害物除去訓練
- d) 地方支部の防災体制及び対応が有効に機能するかの確認

②東北方面震災対処訓練「みちのくALERT2008」(平成20年)

- ・実施日時：平成20年10月31日～11月1日
- ・訓練参加者：東北方面全部隊、他方面部隊等、施設学校、海・空自衛隊並びに岩手県宮古市から宮城県岩沼市までの太平洋に面した24自治体(宮城県、岩手県を含む)、防災関係機関35機関並びに一般市民を含めた約1万8千人が参加。
- ・主な訓練内容
 - a) 被害が想定される現地での訓練
 - ・1日目：主に被害状況の把握、行方不明者の捜索・救助、部隊集中の訓練
 - ・2日目：給水、給食、入浴、医療支援などの民生支援訓練、装備品等の展示
 - b) ヘリによる孤立者救出、傷病者の空輸訓練
 - ・津波の際は船舶が航行できない三陸沿岸地域の離島を中心とした数か所での訓練
 - c) 応急橋梁工事の訓練
 - ・岩手県遠野市早瀬川：第9施設大隊が自走架柱橋で応急的に架橋
 - ・宮城県石巻市の飯野川：第1施設団、第2施設団が浮橋を建設



図3 県内の消防本部から集結した緊急消防援助隊